

ノーサイド

北原 巖 男

表題をご覧になられた皆さんは、どのような体験を想像されましたでしょうか。

日本の国旗に係る動きについてでしょうか。マスコミは、与党が来年の通常国会に向けて、日本を侮辱する目的で日本の国旗を損壊・除去・汚損した者に対する処罰を科す法案を提出し、成立を期する旨報じています。他国の国旗については処罰規定があるのに対し、日本の国旗についてはそのような規定がない現状を是正するの考えによります。本件は、憲法に定める何人にも認められる表現の自由とも関わってくる過去にも経緯のある重要な内容です。幅広い国民的議論の展開・審議が求められます。今回の筆者の国旗を巡る体験は、そのようなことは全く関係ありません。ただ、筆者にとっては初めての体験でした。

11月15日から26日まで、「国際ろう者スポーツ委員会(ICSID: International Committee of Sports of Deaf)」主催の「東京2025デフリンピック」が開催されました。日本での開催は、初めての事です。1924年に第1回がフランスのバリーで開催されて以降、4年毎に開催され、今回の「東京2025デフリンピック」は、100周年の記念大会となりました。

世界79の国・地域から約3000名の選手が21の競技に熱戦を展開。自衛隊員の皆さん・ご家族そして本紙読者の皆さんも、直接競技会場に出向かれて、手話や「サインエール」で応援された方が沢山おられるのではないのでしょうか。東京大会の観客数は、入場料が無料だったこともあって思いますが、人々の関心は高く、目標の10万人を大きく上回る28万人を記録したとのことです。

今回の特記事項の一つは、「東ティモール国籍」の選手3名(バドミントン男子選手2名、女子選手1名)が、初めてデフリンピックに参加されたことです。ちょうど1か月前の10月26日、正式加盟申請から14年7か月を要して、ようやく東南アジアで最後・11番目のASEAN加盟国となったばかりの東ティモール。加盟後、最初の大きな国際競技大会が「東京2025デフリンピック」となりました。

筆者も妻と一緒にバドミントンの試合会場「京王アリーナTOKYO」(東京都調布市)へ応援に参りました。予め用意した応援グッズは、試合会場で掲げられました。そこには、東ティモールの国旗はありません。予め聞いていたことを思

いだし、一抹の寂しさを抱きながらも、色とりどりの国旗に見入っていました。「東ティモールは、まだ国際ろう者スポーツ委員会(ICSID)に加盟していない。今回の「東ティモール」旗を掲げ、飾り付けました。ル国籍」の3選手は、日本財団ボランティアセンターの財政支援によって初めてデフリンピックへの参加が可能になったものである。東ティモールの代表として東ティモール国旗の下に参

加するのではない。ICS各コートに審判員に先導Dの旗の下に個人参加するされた選手の皆さんが入位置付けである。このため、場内アナウンスは、東試合時に着用するユニフォームも、東ティモールの国旗、国名を挙げず名前のみ旗や東ティモールの国名の紹介。電光掲示板も、対戦相手は、カプフルな国旗と国名も掲示されるのに対して、東ティモールは選手の名前は、そんな制し、東ティモールは選手の名前は、秩序を乱さ名前のみ。ユニフォームも、

国旗を巡る体験

小さなボード、応援用大うちわ(両面にVIVA TIMOR! とFIGHT TIMORLEST E!を大きく明記)、ホワイボードとペン、紐、養生テープ、テトウン語と英語の辞書、カメラ。当日は、東ティモール国旗が付いた野球帽を着用して、自分と

東の
※印に続きます



馴染みの無いデザインのも
のを身に付けています。背
中のアルファベットは、国
名のTIMOR-LESTE
EではなくICSD。
オリンピックなどでロシ
ア選手が個人の資格で参加
を許された等のニュースを
思い出し、国際競技大会で
個人としての参加というの
は、こういうことなのかと、
筆者は初めて思い知りまし
た。ロシアと東ティモール
は、事情は全く異なります
が、「東ティモール国籍」
の選手が、身に付けるユニ
フォームから、選手紹介に
至るまで、「東ティモール」
を一切表に出すことを禁じ
られている異様な光景。き
つと国際競技大会のルール
では当然なことなのでしょう
う。「東ティモール国籍」の
3選手も、予め了解した上
に、活き活きと躍動する爽

やかで誇らしげな東ティモ
ール代表選手そのものでし
た。
3選手・手話通訳者・監
督の一行は、滞在期間中、
多くのボランティアの皆さ
んから様々な親切なサポー
ト・応援を受けながら、練
習・食事・競技・ろう学校
訪問・聴覚障害者の皆さん
との交流・東京観光等に臨
みました。「最貧国」東テ
ィモールから参加「障害
への理解 母国でも諦めな
い」との見出しを打って東
ティモール選手を取り上げ
た11月25日付け朝日新聞夕
刊は、選手たちが日本での
経験を聴覚障害者の状況改
善に役立てたいと意気込む
旨、また「帰ったら政府や
福祉関係者に伝えたい」と
の手話通訳者の話しを紹介
しています。

で参加を決めたと思います
が、筆者にとっては大きな
ショックでした。
一人の大会関係者の方が
近づいて来ました。そして、
大きく広げて飾り付けた東
ティモール国旗を直ぐに撤
去するよう指示を受けまし
た。応援であつてもタメと
のことでした。やむなく取
り外しました。ただ、手元
で振っている東ティモール
国旗の小旗については、使
用を許してくださいと強く
申し上げました。その場で
のOKは頂けませんでし
た。しばらくしてから、よ
うやく了解が来ました。

聴覚障害の皆さんにつ
いて、東ティモールを含
む諸外国について、そし
て国旗についても、思い
を巡らす貴重な機会にな
った東京大会でした。高
かった関心そして幾多の
改善への道のりが未来に
繋がって行くことを願っ
て止みません。
(ご挨拶)

1年間、拙稿「ノーサ
イド」をご覧いただきあ
りがとうございました。
皆様には、良い新年を
お迎えになれますよう
お祈り申し上げます。

北原 巖男(きたはら い
わお) 元防衛施設庁長
官。元東ティモール大
使。現日本東ティモール
協会会長。(公社)隊友
会理事

元防衛施設庁長
官。元東ティモール大
使。現日本東ティモール
協会会長。(公社)隊友
会理事

元防衛施設庁長
官。元東ティモール大
使。現日本東ティモール
協会会長。(公社)隊友
会理事